浅野氏広島城入城400年記念事業 広島市立中央図書館 企画展

浅野家と広島藩

～初代長政から最後の藩主長勲まで～

『浅野氏広島城入城400年』

令和元年（2019年）は、浅野家第3代長晟（ながあきら）が、藩主として広島城に入城してから400年の節目の年にあたります。広島市立中央図書館では、企画展の開催にあたり、浅野家と広島藩について基礎知識をまとめたリーフレットを作成しました。

浅野氏の広島城入城

浅野長政画像（東京大学史料編纂所所蔵模写）

浅野氏の祖・浅野長政は天文16年（1547年）に尾張国（現 愛知県）で生まれ、織田信秀・信長父子に弓衆として仕えた浅野又右衛門尉長勝の養女・末津姫（まつひめ）と結婚し、入婿となります。末津姫の姉・寧々（ねね）が豊臣秀吉の正室（北政所）となったことから、長政は若いころから秀吉に仕えました。秀吉の出世とともに、長政の禄も増し、秀吉の晩年には五奉行（豊臣政権下の政務執行職）となりました。

長政は豊臣政権下において、武功だけでなく、太閤検地等内政面においても手腕を発揮するとともに、秀吉の全国統一に向けて、徳川家康や伊達政宗との交渉や説得にも大きな役割を果たしました。

長政の嫡子（世継ぎ）・幸長（よしなが）は、幼いころから秀吉に仕え、天正18年（1590年）、父・長政とともに秀吉の小田原北条氏攻めに参戦、軍功を上げ、文禄2年（1593年）には長政とともに甲斐一国22万5千石の大名となりました。

慶長3年（1598年）に秀吉が、翌年に前田利家が没すると、加藤清正、福島正則、浅野幸長ら豊臣武断派と石田三成ら文治派の対立が決定的となりました。慶長5年（1600年）の関ヶ原の戦いでは、長政は徳川秀忠に従軍しましたが軍事には関わらず、幸長は徳川方の先鋒として岐阜城攻略に戦果をあげ、この功により、幸長は紀伊国（現 和歌山県）37万6千石余に加増転封されました。

浅野長晟画像（『広島市史』第1巻（広島市／編 名著出版 1972年）より）

その後、長政が慶長16年（1611年）に、幸長が慶長18年（1613年）に嫡子のないまま亡くなり、長政の次男長晟が和歌山城主として浅野家を継ぎました。長晟は慶長19年（1614年）と翌20年の大坂の陣で功を挙げ、元和元年（1615年）に家康の三女・振姫（ふりひめ）と結婚します。

そして、元和5年（1619年）、広島城無断修築の罪で改易となった福島正則に代わり、広島藩42万6千石に加増転封となり、旧暦8月8日に広島城に入城しました。以来明治2年（1869年）の版籍奉還に至るまで、250年間にわたり浅野氏が広島藩を治めました。

浅野図書館と浅野文庫

広島市立中央図書館は、広島藩第12代藩主 浅野長勲（ながこと）氏が浅野長晟広島城入城300年を記念して、大正15年（1926年）に中区小町に建設した浅野図書館を前身としており、特別コレクション「浅野文庫」を所蔵しています。浅野文庫には旧広島藩主浅野家から寄贈を受けた和漢の古書・図記類のうち、疎開により原爆の被災から免れた約1万点の資料を所蔵しています。

「浅野図書館開館記念〔絵はがき〕」（広島市立中央図書館蔵）

お問い合わせ先 広島市立中央図書館 広島市中区基町3番1号 TEL／082-222-5542 FAX／082-222-5545

浅野氏関係系図

養子の動き ●→○

- 長満
  - 勝隆
    - ○長勝
      - 長政
        - 女子 寧々（秀吉室北政所）
        - 女子 良々（長政室）
        - 幸長
          - ○長晟 1
            - 長治 1
              - ○長照 2
                - 長澄 3
                - 長経 4
                - ○長寔 5
                - ●長寔
              - ○長尚（早世）
              - 女子 阿久利（赤穂浅野長矩室）
            - 光晟 2
              - 綱晟 3
                - ●長尚（三次支藩へ）
                - ●長澄（三次支藩へ）
                - ●長照（三次支藩へ）
              - 綱長 4
                - 吉長 5
                - 宗恒 6
                - 重晟 7
                - 斉賢 8
                - 斉粛 9
                - 慶熾 10
                - ○長訓 11
                - ○長勲 12
                - …
                - 長貞（青山長喬養子）
                - 長包
                - 忠鼎（長孝）（唐津藩水野忠任養子）
                - 快温
                - 懋積（としつぐ）（関家を継ぎのち浅野姓に復す）
                - ●長厚（青山分家へ）
                - 長和（浅野大学家系へ）
                - ●守夫
                - 長之
                - ●長訓
                - 懋昭（としてる）（沢三石養子のち浅野姓に復す）
                - ●長勲
                - 嘉吉（惟聰）
                - 長道（長勲養子となるもロンドンに客死す）
                - 彦吉（早世）
                - 養長
                - 正昭
                - ●長賢（青山内証分家）
                - 長喬
                - 長員（宗恒三男）
                - 長容
                - ○●長訓
                - ○●長勲
                - ○長厚（明治二年宗家に合併）
                - ●忠順
                - 長晟
                - 長重
                - 長直 1（赤穂分家）
                - 女子
                - 長賢
                - 長恒
                - 長友 2
                - ●長広
                - 長矩 3
                - ○長広（大学）
                - 長純
                - 長延
                - 長貞
                - 長邦
                - 長年
                - 長栄
                - 鎮（静）（長栄母）
                - 正言
                - ○長和
                - 長楽
              - 長則
              - 長直
              - 長詮（かね）
                - 女子（安井重継室 長政実母）
                - 長忠
                - 忠吉（初代三原浅野家）
                - 長季
                - 光直
                - 長富
                - 長春
                - ●長勝（宗家の嗣子となる）
                - 長継
              - 重高
- 長温

東城浅野家（広島藩家老）

高勝 — 1 高英 — 2 高次 — 3 高尚 — 4 高方（○綱長七男） — 5 俊峰 — 6 高明 — 7 道寧 — 8 高景 — 9 高通 — 10 高平 — 11 道博 — 12 道興 — 13（守夫）道敏（○懋績六男） — 榮 — 道根

三原浅野家（広島藩家老）

1 忠吉 — 2 忠長 — 3（ざね）忠真 — 4（よし）忠義 — 5（やす）忠綏 — 6（あき）忠晨 — 7 忠正 — 8（よし）忠愛 — 9（修）（より）忠順（○重晟四男） — 10（ひろ）忠敬 — 11（忠）（ただす）忠助 — 12（敬五）（ひろかず）忠英 — 忠純（ずみ） — 鉄馬 — 忠允（のぶ） — 忠行

上田家（広島藩家老）

1（宗箇）重安 — 2 重政 — 3 重次 — 4 重羽 — 5 義行（○綱長八男） — 6 義従 — 7 義敷（綱長十一男） — 8 義珍 — 9 安虎（○長賢（青山内証分家）未子） — 10 安世 — 11 安節 — 12（重美）安敦 — 安靖 — 宗雄 — 元重 — 潤二（宗岡）

浅野家歴代一覧

浅野家（浅野家広島藩主）	名前（生没年）	広島藩主在位期間	法号	室（生家）	室の法号	ことがら
初	長政（ながまさ） 天文16年（1547年）～慶長16年（1611年）	–	伝正院	末津（まつ）姫（杉原家）	長生院	浅野家初代。室・末津姫は北政所（秀吉正室）の妹。秀吉の相婿にあたるため、若くから秀吉に仕える。秀吉政権で重きをなし、五奉行となる。
2	幸長（よしなが） 天正4年（1576年）～慶長18年（1613年）	–	清光院	瑛米（よめ）姫（前田家） 因幡姫（池田家）	養泉院 慶雲院	長政嫡男。関ヶ原の戦いの功により、和歌山城主となる。豊臣武断派七将の一人とされ、砲術家・稲富一夢について砲術を学び「天下一」と称される。また、家臣上田宗箇を通して古田織部に茶の湯を学ぶなど、文武に秀でていた。
3（初）	長晟（ながあきら） 天正14年（1586年）～寛永9年（1632年）	元和5年（1619年）～寛永9年（1632年）	自得院	振（ふり）姫（徳川将軍家）	正清院	長政次男。浅野家初代広島藩主。元和五年（1619年）、和歌山から広島に転封。家康の三女・振姫を正室に迎える。元和・寛永期に、町方・郡方の支配体制を整える。
4（2）	光晟（みつあきら） 元和3年（1617年）～元禄6年（1693年）	寛永9年（1632年）～寛文12年（1672年）	玄徳院	満（まん）姫（前田家）	自昌院	家康の外孫で、三代将軍家光の従兄弟にあたる。庶兄長治に5万石を分治し、三次支藩を立てる。広島東照宮を建立した。
5（3）	綱晟（つなあきら） 寛永14年（1637年）～寛文13年（1673年）	寛文12年（1672年）～寛文13年（1673年）	天心院	寵（いつ）君（九条家） 八代君（九条家）	芳雲院 称専院	神田山の山荘「日新館」にて、修学や来客接待を行う。37歳の若さで没し、藩主在位期間は約9か月と短い。
6（4）	綱長（つなが） 万治2年（1659年）～宝永5年（1708年）	寛文13年（1673年）～宝永5年（1708年）	顕妙院	貴（あて）姫（當姫）（徳川家（尾張））	馨香院	15歳で家督を継ぐ。藩財政の窮乏が始まり、倹約令の発布や、藩財政の強化等を行った。赤穂事件が起こり、事件への対応を迫られる（赤穂浅野家は分家）。歴代藩主の中でも書画に優れ、特に丹青の技に長じていた。
7（5）	吉長（よしなが） 天和元年（1681年）～宝暦2年（1752年）	宝永5年（1708年）～宝暦2年（1752年）	体国院	節姫（前田家）	源光院	治世は歴代藩主の中で最長の44年。職制や財政の改革を自ら主導した浅野家中興の祖。幕府の儒官から「当代の賢侯第一」と評された。好学で、本格的な武士教育を目指して講学所（講学館）を開設する。
8（6）	宗恒（むねつね） 享保2年（1717年）～天明7年（1787年）	宝暦2年（1752年）～宝暦13年（1763年）	鶴皐院	喜代姫（前田家）	宝仙院	藩財政の苦境が続くも、吉長に続き藩政改革を更にすすめ、節倹政治を基調とした宝暦改革を断行。藩債整理に成功した。
9（7）	重晟（しげあきら） 寛保3年（1743年）～文化10年（1813年）	宝暦13年（1763年）～寛政11年（1799年）	恭昭院	邦姫 陽姫（ともに徳川家（尾張））	智岳院 深広院	災害や幕府公役の負担の中、宝暦改革を継承、発展。国産自給体制を強化するほか、祖父・吉長の頃に実現できなかった社倉設立を推進、効果をあげる。学問所を城内に創設。歴代藩主の中でも書画に秀で、花鳥画に優れた作品を残している。
10（8）	斉賢（なりかた） 安永2年（1773年）～文政13年（1830年）	寛政11年（1799年）～文政13年（1830年）	天祐院	泰姫（徳大寺家）※婚姻前に死亡。（前田家） 孚希宮（ふきのみや）姫（有栖川宮家）	法体院 翺翔院	国産品の他国販売がすすみ、藩財政は安定。藩内の地誌「芸藩通志」を編集するなど、文化的な面においても成果をあげる。
11（9）	斉粛（なりたか） 文化14年（1817年）～慶応4年（1868年）	天保2年（1831年）～安政5年（1858年）	温徳院	末（すえ）姫（徳川将軍家）	泰栄院	天候不順による凶作、幕府の御手伝い、末姫入輿、饒津神社造営などが重なり藩財政が悪化。六会法・藩札切下げで持ち直したかに見えたが、ペリー来航による開国に備える藩政改革に対応できず、三家老建白などを受け、隠居した。
12（10）	慶熾（よしてる） 天保7年（1836年）～安政5年（1858年）	安政5年（1858年）～安政5年（1858年）	大光院	利姫（徳川家（尾張））	寿操院	幼いころから聡明で、薩摩藩主島津斉彬の薫陶を受ける。成長してからは一橋派大名との交流を持つなど、英明な若公として藩内外の改革派に期待されていた。斉彬病没の直後に、襲封わずか6か月で急死した。
13（11）	長訓（ながみち） 文化9年（1812年）～明治5年（1872年）	安政5年（1858年）～明治2年（1869年）	–	峻姫（浅野（青山内証分家））	清鏡院	開港後の政局に対処するため、領内巡視による藩内の掌握、改革派の登用、軍制の洋式化など藩政改革を行う。長州征伐の際、幕府と長州との間を周旋した。
14（12）	長勲（ながこと） 天保13年（1842年）～昭和12年（1937年）	明治2年（1869年）～明治4年（1871年）	–	綱（つな）姫（山内家）	–	幕末の政局多難の中、長訓を補佐し、朝廷・幕府に対する国事周旋を進めた。廃藩以後、元老院議官、イタリア公使を務めるほか、士族授産、市民教育にも積極的だった。昭和まで生きた大名経験者として有名。

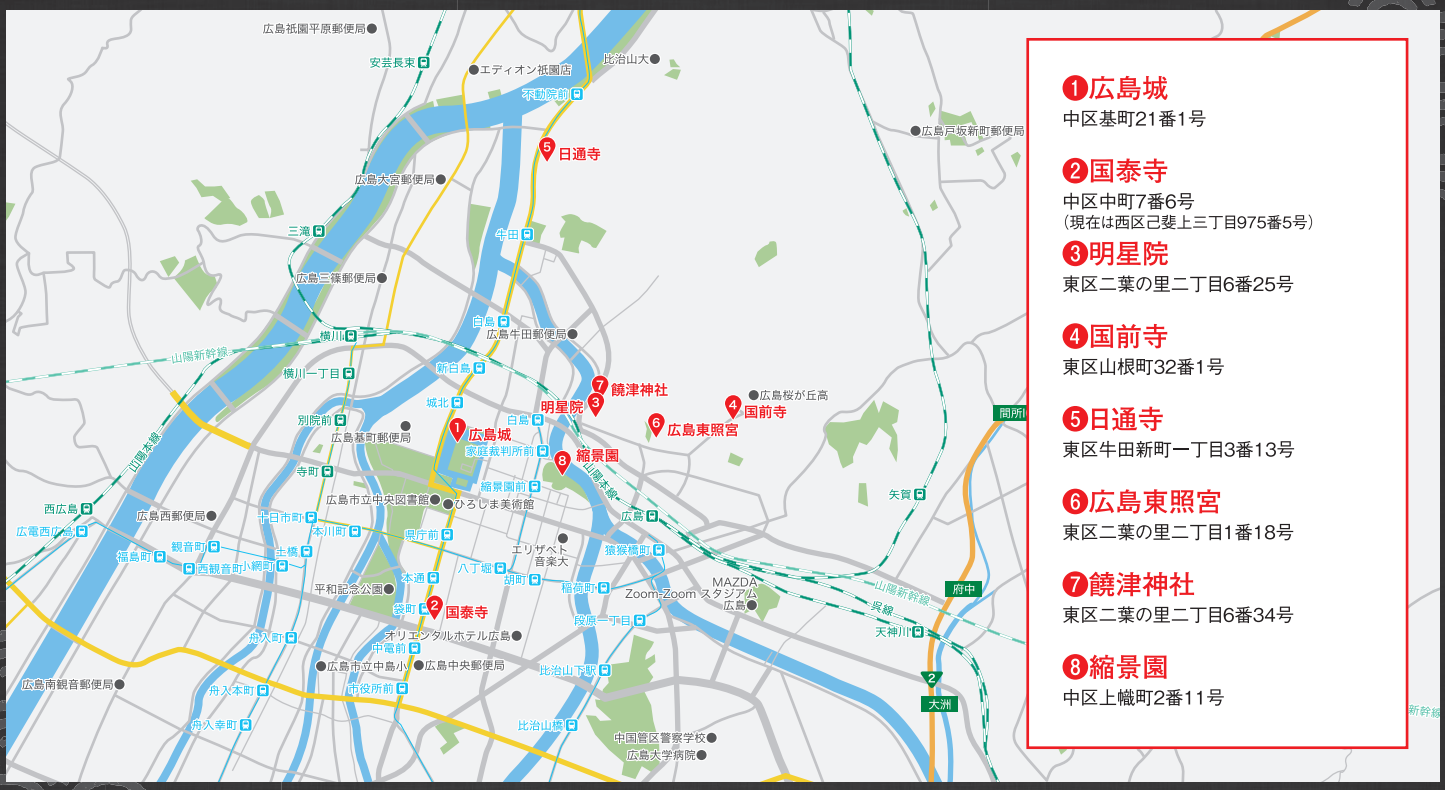
和暦	西暦	藩主	浅野家と広島藩の主なできごと	将軍	日本のできごと
天文16	1547	-	浅野家初代長政、尾張国（現 愛知県）に生まれる。永禄11年（1568年）、弥々（後の末津姫）を正室とした。その姉寧々が豊臣秀吉の正室（北政所）であったことから秀吉と義兄弟の関係となる。	-	
天正14	1586	-	長政、秀吉の命により徳川家康の懐柔に成功。近江国（現 滋賀県）大津城に移る。	-	秀吉、関白に任じられる（1585） 秀吉、豊臣の姓を給う（1586） 秀吉の全国統一（1590）
18	1590	-	小田原北条氏攻めに従軍、長政は鉢形城・忍城などを攻め、幸長は武蔵国（現 埼玉県）岩槻城攻めで初陣をかざる。長政、伊達政宗の懐柔（小田原参陣）及び検地奉行として奥羽仕置（太閤検地）に力を尽くす。	-	
文禄2	1593	-	長政、嫡男幸長とともに甲斐（現 山梨県）一国22万5千石を給い、甲府を居城とする。	-	
慶長3	1598	-	秀吉の死去にともない、長政、石田三成とともに、諸将の朝鮮よりの撤退を実施する。 幸長、加藤清正ら武断派の一人として、石田三成など文治派と対立する。	-	豊臣秀吉死去（1598）
5	1600	-	関ヶ原の戦いでは、長政は秀忠に従ったが軍事には関わらず、幸長が徳川方の先鋒として岐阜城を攻略し、本戦では南宮山の押えを任される。戦後、軍功により幸長は、紀伊国（現 和歌山）37万石余に封ぜられる。	-	関ヶ原の戦い（1600）
11	1606	-	長政、常陸国（現 茨城県）真壁に隠居領5万石を給う。（長政没後は、長政三男・長重が拝領し、のちに播磨国（現 兵庫県）赤穂に転封し、赤穂浅野家となる。）	家康 秀忠	家康が江戸に幕府を開く（1603）
16	1611	-	幸長、豊臣家と徳川家の融和を図り、豊臣秀頼と徳川家康との二条城での対面を実現し、当日は加藤清正とともに秀頼に従う。		
18	1613	-	長晟、兄・幸長の病死を受けて遺領紀伊37万石余を相続し、足守領を返上する。大坂冬の陣（1614年）、大坂夏の陣（1615年）で軍功を上げる。		大坂冬の陣（1614） 大坂夏の陣（1615）
元和2	1616	-	長晟、家康の三女振姫を正室に迎える。翌年、嫡男光晟生まれる（家康の外孫）。		
元和5	1619	長晟	長晟、福島正則の改易を受けて安芸一円・備後国内八郡42万6千5百石余を領し、浅野家初代広島藩主となる。広島城入城（旧暦8月8日）。同年、家老の知行割を行う。		
6	1620		家臣団への知行割を行う。城下に泉邸（縮景園）を築造開始。		
寛永4	1627		光晟、江戸城にて元服。松平の姓と偏諱（へんき）を賜う。安芸守に任じられる（以後代々続く）。※偏諱：実名の一文字目は将軍の名の一字を受けること。	家光	
9	1632	光晟	光晟の襲封にともない、庶兄・長治に5万石を分知し、三次支藩を立てる。		
10	1633		幕府巡見使の巡視を契機に領内の街道・宿駅・御茶屋の制を整備。		
11	1634		光晟、自ら領内を巡見する。以後藩主の巡見が代々の慣例となる。		参勤交代制度確立（1635）
15	1638		藩領の蔵入地村に地詰（内検地）を実施する。給知村では正保3年（1646年）に実施し、約5万石を打出す。		島原・天草一揆が起こる（1637） 鎖国の完成（1641）
正保3	1646		広島に東照宮を建立することを許される。慶安元年（1648年）、城下尾長山に遷宮する。		生類憐みの令（1687）
元禄14	1701	綱長	赤穂藩主浅野長矩、江戸城内にて吉良義央を斬り、即日切腹。分家赤穂浅野家断絶（宝永7年再興）。	綱吉	
宝永元	1704		革屋町に銀札場を設け、初めて銀札を発行、通用。宝永4年（1707年）幕府の藩札通用停止令により銀札の通用停止。		
3	1706		広島城下三川町に紙座（紙蔵）を設け、藩内の紙楮に専売制を実施。		
6	1709	吉長	吉長、職制改革を実施して家老を執政職から除いて顧問とし、代わりに執政職(年寄数名)に人材を抜擢した。藩、甲州流軍学を採用。	家宣	正徳の治が始まる(1709)
正徳2	1712		吉長、郡方新格を定め、郡奉行下の代官制度を廃止し、新たに郡代、所務役人、頭庄屋を任命。領内に目安箱を設置する。	家継	
享保元	1716		藩の徴租法を土免制から定免制とする（年貢率の固定）。	吉宗	享保の改革が始まる（1716）
3	1718		農民による改革への反発が起こり大きな一揆となる。そのため郡方新格を廃し代官制に、定免を廃して土免に戻す。請定銀の制（役所の予算化）を一部の役所で始める。（享保18年全役所に適用）		
4	1719		三次支藩4代目藩主・長経の死去により三次支藩断絶。所領5万石は本藩へ返却。長経弟・長寔（ながざね）に三次5万石分封が許されるが、翌5年死去により再び三次支藩断絶。遺領は本藩へ還付。		
7	1722		代官を止め、郡奉行・郡廻りなどを置く。		目安箱を設置する（1721）
10	1725		広島城下、白島の稽古屋敷に講学所（享保19年に講学館と改称）を設けるが、寛保3年（1743年）経費節減のため閉鎖。		
15	1730		吉長、弟・長賢に蔵米3万石を与え、青山内証分家とする。銀札（藩札）を発行。		
20	1735		吉長、飢饉対策に社倉を検討するも実現せず。		
元文元	1736		地概（幕府へ届け出ない検地）を実施（元文2年廃止）。		
延享4	1747		安芸郡矢野村尾崎八幡宮神官香川将監が、藩で初めて社倉法による社倉を設立。天明6年（1786）領内町村に社倉法成就。	家重	

和暦	西暦	藩主	浅野家と広島藩の主なできごと	将軍	日本のできごと
宝暦2	1752	宗恒	宗恒、襲封し、財政緊縮を柱とした宝暦改革を始める。		
3	1753		飢饉対策として、囲籾の制実施。		
4	1754		諸役所の請定銀（年間予算）の削減を実施。		
8	1758		宝暦の大火が起きる。広島城下の半域が罹災、縮景園も建物や樹木の多くを焼失。		
明和7	1770	重晟	重晟、社倉を領内全域に広める。	家治	田沼意次、老中になる（1772）
天明2	1782		広島藩、頼春水・香川南浜などを登用し学問所を興し、翌日から格式講釈を行う。		天明の大飢饉（1782）
5	1785		藩は学問所の教育を朱子学に統一。		
8	1788		泉邸（現在の縮景園）の改修を行い、ほぼ現在の形となる。	家斉	寛政異学の禁（1790）
文化8	1811	斉賢	広島藩、幕府の許可のもと城下・尾道・三原・宮島に油座を設けて専売制の強化を図る。		
天保4	1833	斉粛	斉粛に将軍家斉女末姫輿入。		異国船打払令（1825）
6	1835		家祖・長政夫妻を祭神とする二葉山御社造営、饒津大明神勧請。		
14	1843		財政窮乏解決策として六会法を実施。	家慶	天保の改革始まる（1841）
弘化4	1847		平価切下げの新銀札（藩札）発行（四十掛）。		
嘉永5	1852		平価切下げの藩札発行（五百掛）。		アメリカ使節ペリー来航（1853）
6	1853		三家老、藩政改革を求める建白書を提出する。	家定	日米修好通商条約締結（1858）
文久2	1862	長訓	国事周旋及び攘夷周旋の内勅を受ける。長訓、藩政改革（軍制・郡制）の実施を訓令する。	家茂	桜田門外の変（1860）
3	1863		英国汽船を購入し震天丸と命名。藩の軍制を西洋式に改編。攘夷実行のため藩内海岸の要地7か所に砲台を設置。薩芸交易はじまる。		
元治元	1864		禁門の変。京都御所の日之出門を警衛。幕府と長州藩の間の文書伝達を命じられる。第一次長州征伐。12月末征長軍解陣。		第一次長州征討（1864）
慶応2	1866		第二次長州征討のため、征討諸軍が広島に集結するが、広島藩は出兵を拒否する。	慶喜	薩長同盟締結（1866）
3	1867		薩長芸三藩の同盟締結。土佐藩に次いで大政奉還の建白書を幕府に提出。世子長勲、小御所会議に出席。議定となる。		大政奉還・王政復古の大号令（1867）
明治元	1868		戊辰戦争始まり、錦旗を給う。鳥羽・伏見の戦いに参加。松平慶永・山内豊信・島津忠義・細川護久と連署で開国を建白。	-	
2	1869	長勲	版籍奉還の請願が受理され、長勲は広島藩知事となる。	-	
4	1871		廃藩置県、広島藩は広島県となる。長勲は広島藩知事を辞し、東京への移住を命じられる。	-	
11	1878	-	長勲、私立浅野学校設立（後に山田十竹に引き継がれる。現在の修道学園）。	-	
15	1882	-	長勲、第2代イタリー王国公使に任じられる。	-	大日本帝国憲法公布（1889）
大正2	1913	-	長勲、日本最初と言われる私立美術館「観古館」を泉邸内に開設。	-	第一次世界大戦（1914）
15	1926	-	長勲、私立浅野図書館（広島市立中央図書館の前身）を開設。昭和6年（1931年）広島市に寄贈。	-	関東大震災（1923）

編集・発行：広島市立中央図書館（令和元年（２０１９年）９月発行）／監修（ｐ１～４、６）：広島県立文書館　西村 晃　研究員（エルダー）

参考文献：『芸備偉人伝』（坂本辰之助／著　警醒社書店　1907年）、『広島縣婦人傳』（手島益雄／著　東京芸備社　1925年）、『坤山公八十八年事蹟　乾』（小鷹狩元凱／編　林　保登　1932年）、『新修広島市史』全7巻（広島市／編　広島市役所　1958～1962年）、『寛政重修諸家譜　第5』新訂（続群書類従完成会　1964年）、『新編藩翰譜　第2～3巻』（新井白石／著　人物往来社　1967年～77年）、『大日本古文書　家わけ　第2』（東京大学史料編纂所／編　東京大学出版会　1968年）、『三原市史　第4巻　資料編1』（三原市役所／編　三原市役所　1970年）、『芸藩輯要』復刻版（林　保登／編　芸備風土研究会　1970年）、『広島市史』全6巻（広島市／編　名著出版　1972年）、『広島県史』全28冊（広島県／編　広島県　1972～84年）、『新編物語藩史　第9巻』（新人物往来社　1976年）、『広島県大百科事典』上下巻（中国新聞社広島県大百科事典刊行委員会事務局／編　中国新聞社　1982年）、『昭和新修華族家系大成　上・下巻』（霞会館諸家資料調査委員会／編　霞会館　1982年・84年）、『赤穂義士事典』増訂（赤穂義士顕彰会／編　新人物往来社　1983年）、『芸州藩・浅野氏の研究』（阪田数年／〔著〕　広島市立中央図書館（製作）　1984年）、『図説広島市史』（広島市公文書館／編　広島市公文書館　1989年）、『上田宗箇の世界展』（原田佳子／編　上田流和風堂　1989年）、『二葉山をめぐる郷土誌』（段原公民館郷土史クラブ／編　段原公民館郷土史クラブ　1990年）、『系図纂要　第12冊　上　清和源氏』新版（名著出版　1994年）、『東城町史　第5巻』（東城町史編纂委員会／編　東城町　1999年）、『浅野長政とその時代』（黒田和子／著　校倉書房　2000年）、『上田家家政史料集成　上田家文書調査報告書1』政治史・茶道史研究協議会／編　広島市教育委員会　2005年）、『村上家乗　慶応三年・明治元年』（正誤表）（広島県立文書館／編　広島県立文書館　2006年）、『昭和まで生きた最後の大名浅野長勲』（江宮隆之／著　グラフ社　2008年）、『広島県の歴史散歩』（広島県の歴史散歩編集委員会／編　山川出版社　2009年）、『日本名門・名家大辞典』（森岡　浩／編　東京堂出版　2012年）、『藩史大事典　第6巻』（木村　礎〔ほか〕／編　雄山閣　2015年）、『広島藩』（土井作治／著　吉川弘文館　2015年）、『江戸三〇〇藩物語藩史　中国・四国篇』（洋泉社　2015年）、『広島市東区二葉の里歴史の散歩道』改訂版（二葉の里歴史の散歩道ブラッシュアップ研究協議会・二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会／編　広島市東区役所　2016年）、『石田三成伝』（中野　等／著　吉川弘文館　2017年）、『浅野氏広島城入城４００年記念リーフレット　第1巻』（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課／編　広島市　2018年）ほか

広島市内にある浅野氏ゆかりの名所



❶広島城

毛利輝元により築城され、以後、福島正則・浅野氏代々の居城となった。原爆の被害にあったが、昭和33年（1958年）に天守閣が再建、平成元年（1989年）の築城400年を機に、二の丸表御門・平櫓・多聞櫓・太鼓櫓が復元整備された。

写真提供:広島県

❷国泰寺

安国寺恵瓊が建立した新安国寺が、福島時代に国泰寺と改められた。初代藩主長晟が浅野家の菩提寺とし、後に和歌山大専寺の住職・全宋を招いて国泰寺の住職とした。昭和53年（1978年）に西区己斐上に移転するまでは、中区中町にある白神社の東隣にあった。

❸明星院

元和6年（1620年）、和歌山愛王院の住職・秀海を招いて明星院の住職とし、長政と夫人末津姫の位牌を安置した。城の鬼門・北東にあたり、国家鎮護の祈祷所として藩主も代々にわたりしばしば参詣、祈祷をした。堂内には赤穂義士四十七士の木造が安置されている。

❹国前寺

明暦2年（1656年）2代藩主光晟夫人・自昌院の菩提寺としたが、元禄4年（1691年）幕府による日蓮宗不受不施派布教禁止政策に基づき、菩提寺としての扱いを止めた。

❺日通寺

2代藩主光晟夫人・自昌院の発願により、神田山にある別荘「日新館」の跡地に建立された。元禄7年（1694年）、国前寺に代わって菩提寺となる。綱晟などの霊廟が置かれ、藩の菩提寺として重きをなしたが、明治維新以後、霊廟は移され、現在は日通寺観音堂。

❻広島東照宮

祭神は徳川家康。2代藩主光晟が、外祖父にあたる家康をまつるため、城の鬼門・北東にあたる尾長山に造営、慶安元年（1648年）に遷宮式が行われた。日光東照宮（現　栃木県日光市）の様式を模した唐門のほか、本地堂、神輿・舎利塔などが市の重要文化財。

❼饒津神社

天保6年（1835年）、9代藩主斉粛が家祖・長政を主祭神として、その追悼のために建立した。境内には、家臣が寄進した石灯籠、手水鉢や、長政が愛用したと伝えられる手水鉢、浅野長勲公頌徳碑などがある。後に末津姫、幸長、長晟、長勲が合祀された。

❽縮景園

元和6年（1620年）、初代藩主長晟の命で造られた藩主の別邸。泉水屋敷、泉邸ともいう。作庭は当時家老だった上田宗箇。天明年間（1781～89年）に、9代藩主重晟が京都から庭師清水七郎右衛門を招いて改修した。

写真提供:広島県